

京都大学文学部 卒業生アンケート

ご卒業おめでとうございます。京都大学文学部の研究教育環境をより良くしていくためのアンケートにご協力をお願いいたします。該当する項目に丸を付けてください。それが「その他」であった場合には、内容を簡潔に説明してください。

1. あなたは入学前に京都大学オープンキャンパスに参加しましたか？

- a. はい
- b. いいえ

2. あなたが自分の所属する専修への志望を決定したのはいつ頃でしたか？

- a. 入学以前にすでに決めていた。
- b. 入学直後に決めた。
- c. 1回生の分属ガイダンスに参加した際に系の選択と同時に決めた。
- d. 2回生の分属ガイダンスに参加してから決めた。
- e. その他 ()

3. 志望動機のなかで重要な位置を占めたのはどのような要因でしたか？（複数回答可）

- a. その専修で行われている研究の分野に興味があった。
- b. 教員や先輩たちの人柄、研究室の雰囲気が入った。
- c. 同級生の友人と同じ専修にしたかった。
- d. 卒業のための単位認定が比較的安いかつ確実に得られそうだった。
- e. その他 ()

4. 実際に専修に進学してみてどうでしたか？

- a. ほぼ予想したとおりだった。
- b. 予想とはかなり違う面があったが、それでも十分に満足だった。
- c. 予想とは異なっており、少々失望した。
- d. 予想とは大きく異なっており、専修変更も考えた。
- e. その他 ()

5. 分属決定前、2回生までに専修の様子を知る機会がもっとある方が良かったと思いますか？

- a. 自分の志望専修が当初からはっきりしていたので、その必要はまったく感じなかった。
- b. 当初は戸惑いもあったが、分属ガイダンス等が催されており、これで充分だった。
- c. そうした機会はもっと多くても良いと思う。情報不足からある程度悩んだ。
- d. 強くそう思う。7月と9月の1回生向けガイダンス等のような機会を増やして欲しい。
- e. その他 ()

6. 京都大学は「自由の学風」を伝統とし、「自学自習」を基本的な理念としています。これに関連して、あなたは文学部での授業について、どのように考えますか？

- a. 自学自習の能力が十分に養われるような形で行われている。
- b. 自学自習の能力がある程度養われるような形で行われている。
- c. 自学自習の能力が養われるような形で行われているかどうか、どちらとも言えない。
- d. 自学自習の能力が養われるような形で行われていない。
- e. その他 ()

7. あなたは文学部で学んだことに満足していますか？

- a. 十分に満足している。
- b. それなりに満足している。
- c. どちらとも言えない。
- d. 後悔している。
- e. その他 ()

8. 4月以降の進路についてお聞きします。

- a. 大学院進学（他大学も含む）
- b. 一般企業に就職
- c. 官庁、地方自治体等に就職
- d. 教員、司書等の専門職に就職
- e. その他 ()

9. 文学部で学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるものがありますか？（複数回答可）

- a. 専門的知識
- b. 専門分野の研究能力
- c. 自分で問題を発見し、解決を図る能力
- d. 一般的な教養
- e. 国際感覚
- f. 外国語の能力
- g. リーダーシップ
- h. 社会的常識
- i. その他 ()

10. お差し支えなければ、あなたが属していた系をお教えてください。

哲学基礎文化学、東洋文化学、西洋文化学、歴史基礎文化学、行動・環境文化学、基礎現代文化学

11. その他意見・要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。[京都大学文学部]

京都大学文学部 卒業生アンケート（2011年3月24日実施） 結果の分析

〈全体の傾向〉

本アンケートは、平成 22 年度の卒業生に対して、卒業式の当日に行なわれたものである。対象者 200 名に対し回答者は 161 名で、提出率は 80.5%と比較的高く、文学部で受けた教育に対して学生たちが卒業時点で下した評価を全体的に反映したものと考えることができる。

設問 1 「あなたは入学前に京都大学オープンキャンパスに参加しましたか？」に対しては、「はい」が 42%、「いいえ」が 56%であった。4 割強の学生が参加しており、オープンキャンパスが受験生にとって大学を知る機会として定着しつつあることがわかる。他方で、半数を超える学生が不参加であることを考えると、オープンキャンパス以外に、文学部ホームページなどをつうじて、文学部の教育内容や卒業後の進路等について、受験生が容易に最新の情報を得ることができるような体制を充実させていくことが重要であろう。

設問 2 「あなたが自分の所属する専修への志望を決定したのはいつ頃でしたか？」に対しては、「2 回生の分属ガイダンスに参加してから決めた」が 42%で最も多く、「1 回生の分属ガイダンスに参加した際に系の選択と同時に決めた」の 16%と合わせると、58%の学生が入学後に文学部主催のガイダンスを受けたいという志望を決めていることがわかる。これは、1・2 回生の間に人文学の諸分野について幅広く学んだうえで専修を選択する文学部のカリキュラムに沿って志望を決める学生が多いことを示している。他方で、「入学以前にすでに決めていた」者も 30%にのぼり、受験の段階から入学後の勉学の目標を明確にもっている学生が相当数いることも確認できる。

設問 3 「志望動機の中で重要な位置を占めたのはどのような要因でしたか？」（複数回答可）に対しては、「その専修で行なわれている研究の分野に興味があった」が 90%で圧倒的に多く、研究室の雰囲気（14%）や単位の取りやすさ（3%）といった要因よりも、学問の内容によって専修を選択する学生が大半を占めていることがわかる。

設問 4 「実際に専修に進学してみてどうでしたか？」に対しては、「ほぼ予想したとおりのことだった」が 46%で最も多いが、「予想とはかなり違う面があったが、それでも十分に満足だった」という回答も 39%で、実際に専門の勉強をはじめたのちに専修分属前に抱いていたイメージとは異なることに気づく学生が相当数いることがわかる。しかし、「予想とは異なっており、少々失望した」、「予想とは大きく異なっており、専修変更も考えた」という回答は比較的少数であり（それぞれ 6%、4%）、当初のイメージとは違っても専門の勉強を進めるなかで満足感を得られる学生のほうが多いことがわかる。とはいえ、予想と異なることで勉学の意欲が損なわれたと感じる学生が 1 割いることも念頭におきながら、1・2 回生の間に、分属ガイダンスの機会などを利用しながら、各専修の内容をていねいに学生に伝える努力が今後必要であろう。

設問 5 「分属決定前、2 回生ままでに専修の様子を知る機会がもっとある方が良かったと思いませんか？」に対しては、「志望専修が当初からはっきりしていたので、その必要はまったく感じなかった」が 19%、「当初は戸惑いもあったが、分属ガイダンス等が催されており、これで充分だ

った」が31%で、現行のやり方で分属の決定には十分であったと感じている学生が半数にのぼる。しかし他方で、「そうした機会をもっと多くても良いと思う。情報不足からある程度悩んだ」(31%)、「強くそう思う。7月と9月の1回生向けガイダンス等のような機会を増やして欲しい」(11%)を合わせると、現行のガイダンスではなお不十分と感じる学生が4割程度いることがわかる。

設問6「京都大学は「自由の学風」を伝統とし、「自学自習」を基本的な理念としています。これに関連して、あなたは文学部での授業について、どのように考えますか？」に対しては、「自学自習の能力が十分に養われるような形で行なわれている」(27%)、「自学自習の能力がある程度養われるような形で行なわれている」(40%)を合わせると、7割近くの学生は「自由の学風」を肯定的に受けとめ、文学部の教育をつうじて「自学自習」の能力を身につけたうえで卒業していくことが確認できる。

設問7「あなたは文学部で学んだことに満足していますか？」に対しては、「十分に満足している」(44%)、「それなりに満足している」(42%)を合わせると、86%の学生が文学部での勉学に満足感をもって卒業したことが確認できる。

設問8「4月以降の進路についてお聞きします」に対しては、「大学院進学」が31%、「一般企業に就職」が46%、「官庁、地方自治体等に就職」が10%であるのに対し、「教員、司書等の専門職に就職」は2%にとどまっている。

設問9「文学部で学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるものがありますか？」(複数回答可)に対しては、「一般的な教養」(54%)、「自分で問題を発見し、解決を図る能力」(48%)、「専門的知識」(42%)、「専門分野の研究能力」(28%)が比較的多い。他方で、全体的にみた場合に「外国語の能力」(18%)、「国際感覚」(8%)、「リーダーシップ」(1%)という回答が少ない点は、今後、追跡的な検証が必要な点の1つであると思われる。

〈各系毎の回答の特徴〉

各系毎の卒業生の回答にみられる特徴を以下に指摘しておく。

【哲学基礎文化学系】(22名、回答者の13%)

設問7「あなたは文学部で学んだことに満足していますか？」に対しては、「十分に満足している」が55%、「それなりに満足している」45%で、全員がなんらかの満足感をもって卒業しており、満足度は高い。

設問9「文学部で学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるものがありますか？」(複数回答可)については、「専門分野の研究能力」(63%)、「自分で問題を発見し、解決を図る能力」(50%)という回答が比較的多い。

【東洋文化学系】（19名、回答者の12%）

設問4「実際に専修に進学してみてどうでしたか？」に対しては、「ほぼ予想したとおりだった」が57%で、比較的高い。

設問7「あなたは文学部で学んだことに満足していますか？」に対しては、「十分に満足している」が36%、「それなりに満足している」が57%で、満足度は比較的高い。

設問9「文学部で学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるものがありますか？」（複数回答可）については、「一般的教養」（68%）、「専門的知識」（63%）という回答が比較的多い。

【西洋文化学系】（14名、9%）

設問4「実際に専修に進学してみてどうでしたか？」に対しては、「ほぼ予想したとおりだった」が71%で、きわめて高い。

設問7「あなたは文学部で学んだことに満足していますか？」に対しては、「十分に満足している」が71%、「それなりに満足している」が28%で、満足度はきわめて高い。

設問9「文学部で学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるものがありますか？」（複数回答可）については、「自分で問題を発見し、解決を図る能力」（71%）、「専門的知識」（64%）に加えて、「外国語の能力」（57%）という回答が他系に比較して多い点特徴的である。

【歴史基礎文化学系】（32名、回答者の20%）

設問2「あなたが自分の所属する専修への志望を決定したのはいつ頃でしたか？」に対して「入学以前にすでに決めていた」と回答した者が半数を超えており（56%）、受験の段階から歴史を学ぶ意欲をもっていた学生が多いことが確認できる。

設問4「実際に専修に進学してみてどうでしたか？」に対しては、「ほぼ予想したとおりだった」（34%）よりも「予想とはかなり違う面があったが、それでも十分に満足だった」（53%）という回答のほうが上回っている。しかし、「予想とは異なっており、少々失望した」という回答は比較的少数であり（6%）、専門の勉強を進めるなかで充実感を得ることのできた学生が多数を占めていることがわかる。

設問9「文学部で学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるものがありますか？」（複数回答可）については、「一般的な教養」（53%）、「自分で問題を発見し、解決を図る能力」（46%）、「専門的知識」（43%）という回答が比較的多い。

【行動・環境文化系】（48名、回答者の30%）

設問2「あなたが自分の所属する専修への志望を決定したのはいつ頃でしたか？」については、「2回生の分属ガイダンスに参加してから決めた」と回答した者が半数を超えている点特徴的である（54%）。これは、心理学、言語学、社会学などの学問分野が高校教育の科目としては存在せず、大学入学後に専門の内容に触れて選択するケースが多いことを反映していると考えられる。

設問2とも関連して、設問5「分属決定前、2回生までに専修の様子を知る機会がもっとある方が良かったと思いますか？」に対しては、「志望専修が当初からはっきりしていたので、その必要はまったく感じなかった」は12%とやや少なく、「当初は戸惑いもあったが、分属ガイダンス等が催されており、これで充分だった」(31%)と合わせても半数に満たない。これに対して、「そうした機会はもっと多くても良いと思う。情報不足からある程度悩んだ」が33%、「強くそう思う。7月と9月の1回生向けガイダンス等のような機会を増やして欲しい」が18%で、半数を超える学生が、1・2回生の間に専門の内容について知る機会がさらに多ければよかったと感じていることがわかる。

設問6「京都大学は「自由の学風」を伝統とし、「自学自習」を基本的な理念としています。これに関連して、あなたは文学部での授業について、どのように考えますか？」に対して、「自学自習の能力が養われるような形で行なわれているかどうか、どちらとも言えない」という回答が比較的多い(25%)。

設問7「あなたは文学部で学んだことに満足していますか？」に対しては、「十分に満足している」が39%、「それなりに満足している」が41%で、満足感をもって卒業する学生が8割を占めている。他方で、少数ではあるが「どちらとも言えない」(5名)、「後悔している」(3名)という回答もみられる。

設問9「文学部で学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるものがありますか？」(複数回答可)については、「一般的な教養」(60%)、「自分で問題を発見し、解決を図る能力」(50%)、「専門的知識」(39%)という回答が比較的多い。

【基礎現代文化学系】(15名、回答者の9%)

設問2「あなたが自分の所属する専修への志望を決定したのはいつ頃でしたか？」については、「2回生の分属ガイダンスに参加してから決めた」が40%、「1回生の分属ガイダンスに参加した際に系の選択と同時に決めた」が33%であるのに対し、「入学前にすでに決めていた」と回答した者は13%にとどまっている。これは、この系を構成する学問分野が高校教育の科目としては存在せず、大学入学後に専門の内容に触れて選択するケースが多いことを反映していると考えられる。

設問2とも関連して、設問5「分属決定前、2回生までに専修の様子を知る機会がもっとある方が良かったと思いますか？」に対しては、「志望専修が当初からはっきりしていたので、その必要はまったく感じなかった」は13%とやや少なく、「当初は戸惑いもあったが、分属ガイダンス等が催されており、これで充分だった」(33%)と合わせても半数に満たない。これに対して、「そうした機会はもっと多くても良いと思う。情報不足からある程度悩んだ」が40%、「強くそう思う。7月と9月の1回生向けガイダンス等のような機会を増やして欲しい」が13%で、半数を超える学生が、1・2回生の間に専門の内容について知る機会がさらに多ければよかったと感じていることがわかる。

設問7「あなたは文学部で学んだことに満足していますか？」に対しては、「十分に満足している」(20%)、「それなりに満足している」(53%)を合わせると、満足感をもって卒業する学生が多数を占めている。

設問9「文学部で学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるものがありますか？」

か？」(複数回答可)については、「自分で問題を発見し、解決を図る能力」(60%)、「一般的な教養」(53%)、という回答が比較的多い。